The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | ＜紹介＞中井賢一著『物語展開と人物造型の論理 ：源氏物語〈二層〉構造論』 |
| Author(s) | 後藤, 京 |
| Citation | 語文. 2017, 109, p. 76-77 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/73312 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

## 中井賢一著『物語展開と人物造型の論理―源氏物語〈二層〉構造論―』

後藤　京

著者・中井賢一氏は、本書において『源氏物語』の物語展開と人物造型を管掌する論理について考証された。書名が示すように、氏の考察の基底には〈二層〉構造論が据えられている。〈二層〉構造とは、『源氏物語』の展開を統べる法則を表すために氏が定義された言葉である。

この〈二層〉構造は、『源氏物語』に登場する二人の源氏―光源氏と夕霧―の対照的な生き様に着想を得たものである。前者は「罪の恋と栄華」の権力体制を、後者は「恋と栄華」の権力体制を樹立した。氏は、光源氏と夕霧を、同等の力を有する〈一対〉と見なしたのである。従来、『源氏物語』において、「光源氏と頭中将」「夕霧と柏木」が対の存在として認識されてきた。つまり、同年代で、同時期に政界にある二人がそれぞれ〈一対〉とされてきたのである。しかし、氏はその常識に疑問を投げかける。

源氏父子を〈一対〉と捉えたとき、『源氏物語』は我々の前にいかなる相貌を呈するのか。また、我々はこの物語のいかなる謎を解き明かすことができるのか―。本書はそれを探った一冊である。

参考のために、本書の構成を次に紹介する。

序章・はじめに　光源氏と夕霧

第Ⅰ部　立論篇―〈二層〉構造論への帰納的アプローチ―

第一章「夕霧〈不在〉の論理―夕霧の機能と物語の〈二層〉構造―」／第二章「夕霧〈太政大臣予言〉の論理―〈夕霧権力体制〉の誤算と物語の〈二層〉構造―／第三章「「夜ごとに十五日づつ」通う夕霧―浮舟の機能と物語の〈二層〉構造―」／第四章「宇治十帖〈解体〉と〈閉塞〉の論理」

第Ⅱ部　実証篇―〈二層〉構造論への演繹的アプローチ―

第五章「葵巻〈連鎖〉の論理」／第六章「若菜〈上巻〉論―朧月夜の再登場と朱雀院の機能―」／第七章「明石中宮論―明石中宮の機能と権力機構としての宇治―」／第八章「桐壺帝と左大臣―二つの〈違背〉と源氏物語の権力体制―」

第Ⅲ部　補論篇―〈二層〉構造論を支える思考―

第九章「光源氏と絵合―源氏物語の逆説的人物造型―」／第十章「夕霧の元服と光源氏―光源氏と夕霧を切り離す力―」／第十一章「柏木不在の論理―柏木・弁少将の機能と夕霧・弁少将の対峙の構造―」

初出一覧・おわりに

右のように、構成は三部から成る。『源氏物語』の構造を考察するために三段階の手順が踏まれたのである。

第Ⅰ部「立論篇」は、「帰納的アプローチ」を試みた四つの章で構成される。作中の「具体的事象」と「謎」の分析を通して、物語構造の定位がはかられた。

対して、第Ⅱ部「実証篇」においては「演繹的アプローチ」が試みられた。〈二層〉構造論を用いて『源氏物語』を考察することで、作中の様々な「謎」が解明されることが証立てられた。

第Ⅲ部「補論篇」は、「〈二層〉構造論を支える思考」と位置付けるべき三章から成る。

以上、概略と構成を述べた。「光源氏と頭中将」「夕霧と柏木」を〈一対〉とする従来説を疑った氏の考察には、着目すべきものがある。本書は、これを読む者に新しき知見を与える一冊である。

（新典社、二〇一七年三月、三九七頁、一、一五〇〇円＋税）

（ごとう・みやこ　本学大学院博士前期課程）